



Flash News

三重大学

第72号

目次

- 「地域医療教育に関する協定」を締結
- 「知事トークinキャンパス」を開催
- 「フレンテまつり」で理系女性研究者支援事業を紹介
- 「みえメディカル研究会」の総会および三重大学との合同講演会を開催
- 障がい者による環境整備
- 「第3回ウッドケミカル産業創造シンポジウム」を開催
- 「平成21年度退職準備セミナー」を開催
- 「学校施設の防災機能強化のモデル事業」報告会を開催
- JST「東海3大学新技術説明会」を開催
- 「留学フェア2009」を開催

お知らせ & ご報告

- ・研究支援チームから
- ・国際交流センターから

「地域医療教育に関する協定」を締結

6月9日、三重県自治会館において、医学部は、県内全29市町でつくる(財)三重県市町村振興協会と標記協定を締結しました。関係者が見守る中、駒田美弘医学部長と水谷 元(財)三重県市町村振興協会理事長・桑名市長が「医学部が確保した人材が修学時から地域医療に対する理解を深めることにより、将来にわたる県内の地域医療への定着促進を図るため、医学部が協会との連携協力により実施する地域医療教育を進める」ことを趣旨とした協定書に署名し、調印式が行われました。本年度から毎年1億円を限度として、6年間交付金を受け、県内に定着する医師の養成を図ります。

地域医療教育に関する協定調印式



写真中央：野呂昭彦三重県知事

「知事トークinキャンパス」を開催

6月24日、本学で3回目となる「知事トークinキャンパス」が、医学部臨床第2講義室において本学のキャリア教育の一環として開催されました。第1部は、野呂昭彦三重県知事が「常若(とこわか)の美(うま)し国三重～"文化力立県"元年へ～」と題して、約200名の学生および教職員を前に、「三重県を取り巻く時代背景」「文化力による県政展開」等の講演を行いました。第2部は、宮崎冴子特任教授による進行のもと、知事と学生とのトークが行われ、学生から「三重県の課題」や「地域医療機関の改善」についての質問があり、活発に意見が交換されました。

「フレンテまつり」で理系女性研究者支援事業を紹介

6月5日～6日、三重県総合文化センターにおいて、本学は、文部科学省の科学技術振興調整費による女性研究者支援モデル育成事業の一環として参加し、地域社会の理系女性研究者支援に対する理解を深めるため、ブースを設置して本学の理系女性研究者支援事業を紹介しました。イベントには地域住民の方々や「フレンテまつり」実行委員の方々をはじめ、連携機関や自治体の職員が参加し、理系女性研究者支援の共通理解を強化することができました。



「みえメディカル研究会」の総会および三重大学との合同講演会を開催



6月22日、講堂(小ホール)において、標記講演会が開催されました。合同講演会では、鶴岡信治地域イノベーション学研究所長より、同研究科の特色・育成する人材像・三重地域圏から期待される役割などについて説明があり、多くの方に本研究科をPRする絶好の機会となりました。また、本学客員教授の宮田 満日経BP医療局主任編集委員による、世界のバイオメディカル産業の動向などについて特別講演が行われました。当日は、学内外から多くの方が参加し、熱心に聴講しました。

障がい者による環境整備

本学は、昨年12月から附属特別支援学校の卒業生をはじめ、障がい者3名と障がい者支援コーディネーター2名を雇用し、構内の除草や清掃など環境整備を行ってきました。4月からは新設された総務部定型業務等運営・支援センターに所属し、地域住民からの要請による本学周辺の落ち葉の清掃なども積極的に行っています。また、雨天の場合は、講堂、図書館など共用施設の室内清掃にも携わっています。彼らは障がいを抱えていますが、正門周辺に季節の花を植える等、学生や教職員が気持ちよく過ごせるよう日々がんばっています。障がい者の環境整備業務へのご理解とご協力をお願いします。

**「第3回ウッドケミカル産業創造シンポジウム」を開催**

5月25日～26日、徳島県那賀町において、植物資源を有効活用し脱石油化を図り、バイオマスタウン構想を進める標記シンポジウムが行われました。シンポジウムでは、坂口博文那賀町長、内田淳正学長による挨拶の後、芦田 譲京都大学名誉教授の講演に続いて、船岡正光生物資源学研究科教授による「植物資源連続変換システムの実証化に向けた取り組み」と題した講演があり、その後、藤田正憲高知工業高等専門学校長、飯泉嘉門徳島県知事と関係者によるパネルディスカッションが行われ、熱心な討論が交わされました。林業家など地元の方々を中心に約150名が参加し、興味深く聴き入っていました。

**「平成21年度退職準備セミナー」を開催**

5月26日、来年3月に定年退職を迎える職員に対し、退職後の生活設計に役立てるための知識や情報を提供する標記セミナーを開催しました。セミナーでは、本学事務担当者による退職手当等の説明があり、税理士の森 伸生氏による「知って得する税金の話」と社会保険労務士の奥田正治氏による「年金・雇用保険制度について」の講演が行われました。当日は、定年退職予定者27名が参加し、メモをとるなど熱心に聴き入っていました。

「学校施設の防災機能強化のモデル事業」報告会を開催

5月27日、附属中学校体育館において標記報告会を開催しました。これは平成20年度、文部科学省の標記事業に採択された事業で、災害時における教育機能と地域の避難所としての機能のソフト面およびハード面について、有識者や学校関係者、地域の住民等により検討を行い、防災・減災の基本計画書等を作成しました。報告会には、地域の自治会、PTA、附属学校の教職員等が多数参加し、川口 淳准教授・工学研究科による講演を聴き、災害時での児童・生徒への対応と避難所の運営体制、心構え等について認識を新たにしました。

**JST「東海3大学新技術説明会」を開催**

6月11日～12日、JST東京本部において、本学は、岐阜大・名工大・JSTと標記説明会を開催しました。大学が保有するライセンス可能な特許7件について、発明者（生物資源学研究科：田丸 浩准教授、一色 正准教授、青木恭彦准教授、水野隆文准教授、工学研究科：松井龍之介准教授、中村修平教授、鈴木実平教授）が企業関係者に対して、説明するとともに、個別相談会において、マッチングを行いました。201名の参加者があり、個別相談会では23名の企業関係者が訪れ、今後の特許ライセンス、共同研究に発展することとなりました。

「留学フェア2009」を開催

5月27日、メディア・ホールにおいて、国際交流センターは、人文・教育学部との共催で標記留学フェアを開催しました。留学フェアは、在学中に海外で言葉や文化を学び、授業や研修を受け、交流する機会について情報提供するものです。当日は、留学・語学研修を経験した学生の体験談をはじめ、語学研修、短期留学、国際インターンシップおよび奨学金等の各ブースでの質問・相談等が行われ、日本人学生や協定大学からの短期留学生および教職員50名が参加し、有意義なイベントとなりました。

お知らせ & ご報告**研究支援チームから—《平成21年度第1回科学研究費補助金説明会》**

○講演者：會田勝美日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員・東京大学名誉教授 ○開催日：7月6日（月）14：40～16：30
○開催場所：講堂（小ホール） ○対象者：教職員、学生 詳しくは、HP（<http://www.mie-u.ac.jp/tokubetsu/20090706poster.pdf>）をご覧ください。

国際交流センターから—《学長表敬訪問 & 大学訪問》

○ウェイン州立大学（アメリカ）
・・・医学研究科・医学部、学部間協定

1. 日時：平成21年5月14日（木）9：00～9：30
2. 訪問者：医学部学生 2名
3. 同席者：駒田医学系研究科長、堀医学系研究科准教授

○チェンマイ大学（タイ）・・・大学間協定

1. 日時：平成21年5月14日（木）14：30～17：30
2. 訪問者：ボンイン・ラカリヤタム学術・教育担当副学長
アムナット・ユースック学生担当副学長
ジャックパン・シリタンヤック国際交流担当副学長 他12名
3. 同席者：江原学長補佐、酒井学術情報部長、瀬古国際交流チームリーダー

○中華人民共和国駐名古屋総領事館領事

1. 訪問日：平成21年5月18日（月）14：00～16：30
2. 訪問者：梁 晋(LIANG JUN)
3. 同席者：江原学長補佐、酒井学術情報部長、瀬古国際交流チームリーダー

○6月3日、国際インターンシップ報告会が国際交流センターで開催され、学生および教職員31名が熱心に聴講しました。

医学部から— 6月3日、講堂において解剖体感謝式が行われました。献体された方やそのご遺族に感謝の気持ちを捧げました。

